

## 【執 筆 要 領】

### 1. 原稿の構成

#### 1) 項目表

	項 目	原 稿 の 区 分		
		総説・原著・研究ノート	実践活動報告	資料・会員の声
表 紙	投稿者氏名			
	所属機関名			
	連絡責任者			
	原稿等の枚数		○	
	原稿の区分			
	頁数			
	タイトル			
	ランニングタイトル	△	△	△
	和文抄録	○	○	△
	キーワード	○	○	△
図 表 等	図・表・写真	○	○	△
	電子付録	△	△	△
本 文	I 緒言／目的（はじめに）*	○	○	△
	II 方法（対象と方法）＊／活動内容（事業内容）*	○	○	△
	III 結果／活動成果（事業成果）*	○	○	△
	IV 考察／今後の課題	○	○	△
	V 結論	○	△	△
文	謝辞	△	△	△
	利益相反	○	○	○
	資金	△	△	△
	電子付録	△	△	△
	文献	○	○	△

○：必須，△：該当する場合または任意 \*（ ）も可。／以前は総説，原著，研究ノート／以降は実践活動報告に限る。

#### 2) 表紙および図表等（全原稿区分共通。ただし、「資料」・「会員の声」は抄録，キーワード，図表等を省略できる）

	項 目	内 容
	投稿者氏名	全員の氏名（共同筆頭著者がいる場合は†をつける）
	所属機関名	全員の所属機関名（部署名，研究室名まで）を記載する。右上付き文字（*1,*2…）等を用い，投稿者名と対応させる。
	連絡責任者	栄養学雑誌編集委員会事務局とのやり取りおよび論文上で公開するために，連絡責任者の氏名，郵便番号，住所，電話番号，Fax 番号，E-mail アドレスを記載する。
表 紙	原稿等の枚数	本文，図，表，写真，電子付録
	頁数	本文の頁数，図表の枚数および掲載された場合の頁数（刷り上がり1頁は2,200字に相当。図，表，写真はA1頁，中1/2頁，小1/4頁相当）。
紙	原稿の区分	総説・原著・研究ノート・実践活動報告・資料・会員の声のいずれか
	タイトル	短く，内容を適切に表しているもの
	ランニングタイトル	タイトルが25字を超える場合は，25字以内のランニングタイトルをつける。
	和文抄録	〔目的〕〔方法〕〔結果〕〔結論〕，実践活動報告では，〔目的〕〔活動内容〕〔活動成果〕〔今後の課題〕等に分けて，見出しを含めて600字以内にまとめる（構造化抄録）。
	キーワード	3～5個。本文を適切に表しているもの。MeSH タームに準ずることが望ましい。
図 表 等	図・表・写真・ 電子付録	原稿1頁に1つを基本として作成する。1頁におさまらない場合は，分割して2頁に示す。掲載するサイズ（版面約171×244 mm 以内，見開きの場合は342×244 mm 以内。横回転可）で，フォントサイズ8.5 pt までを標準とする。縮小してはならない。図に限り，やむを得ない場合は6 pt を下限とする。図は，原則としてそのまま掲載することが可能な明瞭なものとする。表題については，図と写真では下部，表では上部に記載する。なお，表においては，縦罫線は使わない。また，図，表，写真には，登場順に〔図1〕〔表1〕〔写真1〕等の通し番号をつけ，本文の欄外に，それぞれの挿入位置を指定する。補足的な説明事項を脚注におく際には，次の記号を順番に用いる。 †, ‡, §,   , ¶, **, ††, †† 電子付録は別ファイルとし，〔付図1〕〔付表1〕〔付写真1〕〔付動画1〕等の通し番号をつける。

### 3) 本文（総説・原著・研究ノート）

項 目	内 容
I 緒言	背景と目的。先行研究と今回の研究仮説との関連を簡潔に示す。
II 方法（対象と方法）	対象者の選定方法や特性，データ収集及び解析の方法，倫理的配慮について記載する。解析方法については，本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
III 結果	図，表を用いてわかりやすく示す。解析結果の書き方については，本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
IV 考察	先行研究との関連，研究の制限事項（limitation）を含め，論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる。
V 結論	研究から導き出された重要点を簡潔にまとめる。実践上の意義（practical implication）を含む。
謝辞	著者の条件に満たないが研究の遂行や論文作成に関わった者については謝辞に記載する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
資金	政府等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する。
電子付録	付表1 〇〇〇〇，付図1 □□□□等。印刷時に doi が記載される。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

### 4) 本文（実践活動報告）

項 目	内 容
I 目的（はじめに）	事業や実践活動の目的を示す。
II 活動内容（事業内容）	事業や実践活動の説明と，対象者に対する倫理的配慮に関して記載する。
III 活動成果（事業成果）	事業や実践活動の結果，そこから得られた成果等を，図，表を用いてわかりやすく示す。
IV 今後の課題	事業や実践活動を行う際の注意点や，今後同様の事業や活動をする人たちへのアドバイス等を記載する。
謝辞	著者の条件に満たないが事業や実践活動の遂行や論文作成に関わった者については謝辞に記載する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
資金	政府等からの研究費助成，試料提供，物品および便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する。
電子付録	付表1 〇〇〇〇，付図1 □□□□等。印刷時に doi が記載される。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

### 5) 本文（資料・会員の声）

原稿の形式は特に定めない。本【執筆要領】「1. 原稿の構成」1) 項目表，2) 表紙および図表等を参考に作成する。ただし，利益相反（必須項目）と文献（該当する場合は，下記を参考に記載する。

項 目	内 容
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について，具体的に記載する。企業・団体等からの研究費助成，試料提供，物品及び便宜供与等を受けた場合には，その旨を記載する（例：「利益相反に相当する事項はない」，「著者〇〇〇〇は，株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い，引用順に示す。

## 6) 英文タイトルおよび抄録

投稿規定 8. 4)「和文の場合の抄録の英訳」に記載されているように、編集委員会の求めに応じて、下記の原稿を提出する。

英文 タ イ ト ル 及 び 抄 録	Title	和文タイトルの内容と一致したもの
	Authors	著者全員の氏名
	Affiliation	全員の所属機関名。左上付き文字 (*1.*2…) を用い、著者名と対応させる。
	Abstract	〔Objective〕〔Methods〕〔Results〕〔Conclusions〕に、実践活動報告では、〔Objective〕〔Practice〕〔Results〕〔Future practice directions〕等に分けて、250words 以内にまとめる (Structured Abstract)。和文抄録の内容と一致していること。
	Key words	3～5 個。日本語キーワードと一致したもの

## 2. 原稿の作成フォーマット【様式 4】(学会ホームページから最新版をダウンロードして用いること)

- ① パーソナルコンピュータを用い、原稿(表紙、本文、図・表・写真等。電子付録の動画等を除く)は A4判用紙を縦置きとして、横書きで作成する。ただし、図表等は A4判用紙を横置きとしてもよい。なお、提出ファイルは、Windows の汎用ソフトウェアで扱うことができるものとし、本文は MS-Word、表は MS-Excel、図は MS-PowerPoint の使用を推奨する。
- ② 1 頁あたり 40 字×25 行とし、余白を上下各 30 mm、左 20 mm、右 25 mm に設定する(縦置きの場合)。
- ③ フォントは、和文原稿では明朝体 10.5 pt、英文原稿及び英文抄録は Times New Roman 12 pt とする。なお、図表のフォントサイズは 8.5 pt までを標準とする(8.5 pt ~10.5 pt の範囲内を許容)が、図に限り、やむを得ない場合は 6 pt を下限とする。
- ④ 表紙から文献までには、通し頁(原稿下部の中央)及び行番号(全頁での通し番号)をすべての行につける。
- ⑤ 数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
- ⑥ 図、表、写真には、〔図 1〕〔表 1〕〔写真 1〕等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。英文で表記をする場合は〔Figure 1〕〔Table 1〕とし、〔Fig.1〕などと省略はしない。
- ⑦ 初回投稿時および査読経過中の提出ファイルは、原稿(表紙、本文、図・表・写真等。電子付録を除く)をひとつにまとめた PDF 形式のファイルとする。PDF 形式に変換する際に、図表等を縮小してはならない。電子付録は、原稿とは別のファイル(著者が公開を予定しているファイル形式)とする。
- ⑧ 編集委員会の求めにより、組版用の最終原稿を提出する際は、書き換え可能なファイル形式とし、本文は Microsoft Word、表は Microsoft Excel、図は Microsoft PowerPoint の使用を推奨する。電子付録は提出された形式のまま掲載するため、付図、付表等は PDF 形式を、動画は mp4 形式を標準とする。ただし、読者の利用に配慮し、付図、付表等は Microsoft Excel 形式、画像は JPEG 形式または PNG 形式としても良い。
- ⑨ ファイル名は、初回は“原稿(投稿者氏名).pdf”等とし、査読の経過途中では、“原稿2021\_01\_2(投稿者氏名).pdf”とする。(注:受付番号「2021-01」の第 2 審用の原稿の場合)。最終原稿は、“本文2021\_01\_X(投稿者氏名).docx”、“表2021\_01\_X(投稿者氏名).xlsx”、“付表1\_2021\_01\_X(投稿者氏名).pdf”(電子付録はひとつの図表毎に 1 ファイル)等とする(注:X は審査回)。

## 3. 原稿作成上の注意

- ① 文章はひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
- ② 栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典 第 2 版」、医学用語は日本医学会用語管理委員会編「日本医学会 医学用語辞典 改訂第 3 版」等に準ずる。
- ③ 実験に用いる物質については、商品名を用いず、必ず化学物質名を用いる。
- ④ 数量は算用数字を用い、桁数の多い数は 3 桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号(文献、特許等)の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように示す。km, m, cm,  $\mu\text{m}$ , nm, kg, g, mg,  $\mu\text{g}$ , kl, l, ml,  $\mu\text{l}$ , kcal とする。
- ⑤ 論文中、繰り返し使われる語句については、一般的な略語がある場合は略語を用いてかまわないが、抄録、本文、各図表等、それぞれの初出の時には省略しない。表題には略語は用いない。
- ⑥ 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
- ⑦ 外国語名称はカタカナを用いることを原則とするが、固有名詞や原語の表記が広く使われ、理解しやすい場合には、原語を使用する。
- ⑧ 本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては、本【執筆要領】「4. 文献のリスト①~⑦」の項を参照のこと。

⑨本文中に、章・節・項等を設ける場合は、以下の符号を使用する。

I. II. III.

1. 2. 3.

1) 2) 3)

(1) (2) (3)

⑩文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし本文の最後一括して記載する。本文中の引用文献番号は右上付とする。2つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る(例, <sup>1,2)</sup>)。連続しない3つ以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る(例, <sup>1,3,5,7,9)</sup>)。連続する3つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「~」でつなぐ(例, <sup>2~5)</sup>)。また本文中に著者名で引用する場合、著者が2名以下の場合には姓を記し(例: 木戸・恩田<sup>1)</sup>)、3名以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける(例: Prochaska ら<sup>1)</sup>)。文献は一般に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける(文献として引用できないものの例: 社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等)。

⑪統計解析に関する表記方法等については、本【執筆要領】「5. 統計解析」の項を参照すること。

#### 4. 文献のリスト

引用文献の記載は、下記のように Index Medicus に従い、欧文雑誌名は略記し、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

ただし、法規を引用する場合は、本文中に明記する。

①【雑誌】著者名(和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで、筆頭著者から3名まで記し、4名以上の場合、「他」「et al.」を用いて略記する): 論文タイトル, 雑誌名, 巻数, 初頁-終頁(発行年)

なお、雑誌が電子ジャーナルの場合に限り、前述の書誌要素に加え、DOI (Digital Object Identifier) を初頁-終頁に続けて記す。ページ付けない電子ジャーナルの場合は、初頁-終頁に替えて論文番号を記す。

(和) 黒谷佳代, 中出麻紀子, 瀧本秀美: 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事と健康・栄養状態ならびに食物・栄養素摂取状況との関連—国内文献データベースに基づくシステマティックレビュー—, 栄養学雑誌, **76**, 77-88 (2018)

(洋) Tanaka, H., Imai, S., Nakade, M., et al.: The physical examination content of the Japanese National Health and Nutrition Survey: temporal changes, *Asia Pac. J. Clin. Nutr.*, **25**, 898-910 (2016)

(電子ジャーナル・ページ付けがある) 倉嶋優希, 白石三恵: 妊娠前または妊娠中のボディイメージと妊娠中の体重増加量の関連に関する系統的レビュー, 日本助産学会誌, **33**, 117-127, doi.org/10.3418/jjam.JJAM-2019-0010 (2019)

(電子ジャーナル・ページ付けない) Anders, S., Schroeter, C.: The impact of nutritional supplement intake on diet behavior and obesity outcomes, *PLoS One*, **12**, e0185258, doi: 10.1371/journal.pone.0185258 (2017)

②【図書】著者[編者]名: 章などのタイトル, 書名, [編者], pp. 初頁-終頁(発行年) 出版社, 所在地

(和・著者) 坪野吉孝, 久道茂: 食物摂取の変動要因, 栄養疫学, pp. 47-56 (2001) 南江堂, 東京

(和・編者) 伊達ちぐさ, 徳留裕子, 吉池信男編: 栄養素等摂取量算出のためのデータベース, 食事調査マニュアル(第3版), pp. 23-24 (2016) 南山堂, 東京

(和・著者および編者) 高田和子: 引用文献の書き方, 初めての栄養学研究論文 人には聞けない要点とコツ, 栄養学雑誌編集委員会編, pp. 64-66 (2012) 第一出版, 東京

(洋・著者) Pereira-Maxwell, F.: Geometric mean, A-Z of medical statistics: A companion for critical appraisal, p. 27 (1998) Oxford University Press, New York

(電子図書) Nakamura, M., Sugiura, M.: Health effects of  $\beta$ -Cryptoxanthin and  $\beta$ -Cryptoxanthin-enriched Satsuma mandarin juice, *Nutrients in Beverages*, Grumezescu, A.M., Holban, A.M. eds., pp. 393-417, doi.org/10.1016/B978-0-12-816842-4.00011-3 (2019) Elsevier B.V., Amsterdam

③【翻訳本】著者[編者]名: 原著名/訳者名, 章などのタイトル, 書名, pp. 初頁-終頁(発行年) 出版社, 所在地

(著者) Willet, W.: *Nutritional epidemiology*. 2nd ed./田中平三監訳, 1回当たりに摂取される食品の大きさ(Portion Size), 食事調査のすべて—栄養疫学—(第2版), pp. 94-99 (2003) 第一出版, 東京

(編者) Erdman Jr, J.W., Macdonald, I.A., Zeisel, S.H. eds.: *Present knowledge in Nutrition*. 10th ed./木村修一, 古野純典監訳, ビタミンC, 最新栄養学(第10版), pp. 220-231 (2014) 建帛社, 東京

④【インターネット上の文献】著者名※: タイトル※, URL (アクセス日) 注※: 明らかでない場合に限り省略可。

なお、電子ジャーナルを引用する場合は①【雑誌】を、電子図書を引用する場合は②【図書】を参照すること。

文部科学省, 厚生労働省, 経済産業省: 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針, <https://www.mhlw.go.jp/content/000757566.pdf> (2021年9月21日)

- ⑤【通知】 発信者：タイトル，項目名，通知日，文書番号（通知年）  
厚生労働省健康局健康課長：「第4次食育推進基本計画」に基づく健康づくりのための食育の推進について，令和3年4月1日，健健発0401第3号（2021）
- ⑥【報告書】（冊子体の報告書） 報告者名：報告書タイトル，pp. 初頁-終頁（発行年）  
日本高血圧学会：日本高血圧学会減塩委員会報告2012，pp. 27-37（2012）  
（インターネット上の報告書） 報告者名：報告書タイトル，URL（アクセス日）  
日本栄養改善学会：令和2年度厚生労働省委託事業 令和2年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告，<http://jsnd.jp/r02kourou.html>（2021年9月21日）
- ⑦【公表されている学位論文】 著者名：論文タイトル，大学名，学位授与年，論文の種類，入手先※  
注※：インターネットで入手可能な場合は，URL（アクセス日）を記載する。  
小山達也：日本の中老年及び自立高齢者における「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の質の栄養疫学的検討，大阪市立大学，2018年，博士論文，[https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/il/meta\\_pub/G0000438repository\\_111TDB2886](https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/il/meta_pub/G0000438repository_111TDB2886)（2021年9月21日）

## 5. 統計解析

### 1) 統計解析に関する留意点

#### 確認事項（主に必要な事項）

- ①データは，名義尺度，順序尺度，数量尺度等のいずれか。
- ②標本サイズおよびデータの分布。
- ③比較する群がある場合，2群か，3群以上か。
- ④「対応のある」データであるか。
- ⑤欠損値がある場合，どのように扱うか。
- ⑥①～⑤を考慮して，適切な要約統計量を記載し，必要に応じて推定・検定を行う。解析にはパラメトリックな手法（数量尺度）と，ノンパラメトリックな手法（名義尺度，順序尺度）がある。数量尺度であっても，正規分布しない場合には，対数変換等を行って正規分布に近づけてパラメトリックな手法を用いたり，ノンパラメトリックな手法を用いたりする。分布は，原則として①ヒストグラム，②正規確率プロットにより視覚的に正規性を判断し，③歪度，尖度，④正規性の検定は参考とする。詳細は，本学会監修：初めての栄養学研究論文一人には聞けない要点とコツー（2012）第一出版，東京および保健統計学等に関する成書を参照すること。

### 2) 論文における記載方法

- ①解析方法はすべて方法に記載するとともに，図表の脚注にも検定法を簡潔に記載する。
- ②割合（%）を示す時は，分母となる総人数がわかるように記載する。
- ③検定の有意水準を示し，両側検定か，片側検定かを明記する。  
注）ほとんどの場合は，両側検定である。
- ④ $p$ 値は原則としてそのままの値を示す。0.01以上の場合には有効数字を2桁（例：0.21，0.054），0.01未満の場合には有効数字を1桁（例：0.009），0.001未満の場合は $<0.001$ と記載する。  
注）相関表等において，図表の簡略化のために記号等で有意性を表すこともある。
- ⑤分析結果の数値は，必要十分な桁数で示す。  
注）目安として，平均値・標準偏差・標準誤差の小数部は，元のデータより1桁多く，割合（%）では整数または小数第1位まで，オッズ比・相対危険は小数第2位まで。
- ⑥回帰係数，オッズ比等は，点推定値だけでなく，標準誤差や95%信頼区間または $p$ 値も示す。
- ⑦市販のコンピューターソフトを用いて処理した場合は，使用したソフトウェア名（バージョン，開発元）を本文中に記載する。

## 6. 原稿以外に必要な書類：全ての書式（最新のものを），学会ホームページからダウンロードすること。

- ①投稿手続き票【様式1】
- ②著作権委譲承諾書【様式2】
- ③利益相反開示書【様式3】
- ④投稿原稿チェックリスト

## 7. その他留意事項

### 1) 食事調査

食事調査では，栄養計算に使用した日本食品標準成分表等の名称（版）や栄養計算ソフト名（バージョン）を示すこと。食物摂取頻度調査法等，調査票を用いる場合には，その妥当性を示した論文を引用すること。また，新たに開発した調査票の場合，その妥当性を本文中に示すこと。

2) 食事摂取基準

最新の「日本人の食事摂取基準」を参照することを原則とし、正しく摂取量のアセスメント等を行うこと。

3) 介入研究・疫学研究のデザインと報告

無作為化比較試験については CONSORT 声明 (<http://www.consort-statement.org>) を、非無作為化比較試験については TREND 声明 (*Am. J. Public Health*, **94**, 361–366 (2004)) を、観察研究については STROBE 声明 (<http://www.strobe-statement.org>) を参考とすることを強く推奨する。

なお、これらの日本語訳及び解説は、中山健夫、津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集 (2008) ライフサイエンス出版、東京に記載されている。

(一部改定：2021年11月1日)